

# 書 燈



(右) 中央図書館体験講座「円筒埴輪を作ろう！」  
(左) 中央図書館「本の福袋～新しい出会いを！～」

## 変わる図書館②

阪本 和子

神戸市立図書館との出会いは高校時代に遡る。学校図書館ではレポートの資料が足りず、初めて旧館時代の中央図書館に足を踏み入れた。少し緊張して入口で座席札を受け取り、出納を受けたことを記憶している。大学生になると、全く別の図書館となった現1号館に、夏休みなど足繁く通った。楽しみにというよりは必要に迫られてという面が強かった。さらに職員としても勤務し、実に40年以上の付き合いとなっている。

公園の地形を活かした斬新な建物、25万冊の大規模開架、コンピュータシステムを導入した昭和55年誕生の新中央図書館は、当時最先端のサービスとして注目された。一方で、神戸市立図書館の代名詞ともいえるレファレンスにも力を入れていた。1階は気軽に読める本が揃うポピュラーライブラリー、2・3階フロアには参考図書と専門書・郷土資料と、いわば1つの建物に2つの図書館が同居するような状況が今に至っている。

さて最初に配属された須磨図書館には閲覧机がなく、百科事典すら貸し出していた。「本は家に持って帰って読むもの」という考え方に基づく。平成に入ってから灘・西図書館以降はやはり調べものの機能も必要と、参考図書コーナーや閲覧席を設けた。今や自治体内であればどの館で借りても返してもよいのが当たり前だが、以前は神戸市立とはいえ各館がスタンドアロンだった。それが順次コンピュータシステムで繋がっていき、それに従い複数館を同時に使う利用者也出現し、

それまで各館が個性としていたサービスや選書を統一、さらに館から館へ本を運ぶ物流便が不可欠となった。

平成20年度には指定管理者制度導入でまた大きく舵を切ることになる。可能な限り全て民間へという大号令のもと、地域館は順次民間の運営へと移行した。サービスの基本方針や選書は中央館のコントロール下で、市内均質に、各館はイベント等で個性を競っている。

現在地域館の拡充や新設が続いている。所蔵冊数増だけでなく、デザイン性を重視、様々な形態の閲覧席やセミナー室を設ける。地域の学習拠点、まちづくりの拠点としての図書館が提唱される中、駅前の再整備や人口誘引に繋がるいくつものプロジェクトからなるリノベーション・神戸を進める中で、図書館の存在が注目されている。コロナ禍やDX化において、電子図書館等非接触型サービスも注目されている。

今、少子高齢化による収収減にコロナ禍が追い打ちをかけ、図書館サービスのみならず市政全体に大きな影響を及ぼしている。そんな中でも市民の知る権利を保障するために最低限譲れないものは何か、これからどんなサービスを構築していくのか、変えるべきものは何か、変えてはいけないものは何なのか。私が経験した40年間図書館が変化し続けたように、これからも図書館は変化し続けるのだろう。変化を選び取り実行していくのは、他でもない神戸市職員としての司書の力なのだと思う。(利用サービス課長)

## 電子図書館の本格実施

総務課担当係長 秋定 敦  
市民サービス係長 棟安 陽子

### 1. 電子図書館の試行実施

電子図書館の取り組みは、当初、小学校の英語教科化に向けて家庭で英語に親しんでいただくことを目的に、平成30年6月から2年間の試行として実施した。さらに、コロナ禍での取り組みとして6か月間、令和2年12月まで延長した。

提供総コンテンツ数は13,473冊であるが、内無料の青空文庫11,198冊を除くと2,275冊（日本語書籍1,554冊、洋書721冊）の冊数規模であった。

月間の貸出冊数は2,000冊前後で一定のニーズがあったが、コロナで全面閉館した令和2年5月は、倍以上の約5,000冊の貸出があり、在宅でも利用可能な電子図書館のメリットが発揮された。

### 2. 電子図書館の本格実施

2年半の試行実施を経て、「Withコロナ」「Afterコロナ」の時代における非来館型サービスを展開することと、読書バリアフリー法の主旨を受け電子図書館ならではの文字拡大や読み上げなどの機能を使って高齢者や障害者へのサービスの充実を図ることを目的に、令和3年1月5日から、本格実施となった。

試行実施は事業者の提案・負担により実施したが、本格実施は詳細検索・独自資料の登録・日本語読み上げ機能など必要な機能要件を定めてプロポーザル方式で事業者を選定することにした。

選定の評価ポイントは、読書に障害がある人への支援機能は十分か、セキュリティ対策・システム障害時の対応、利用促進の支援、電子書籍の充実度などであった。図書館システムとの連携は難しい現状だったので、システム連携は条件としなかった。

9月に公募を開始し、10月に企画提案書を締め切ったが、必要な機能要件を満たす事業者1社だけの応募となった。その後、選定委員会にてヒアリング・審査を行い、学識経験者の意見を聴取し、11月に正式に決定し、株式会社図書館流通センター（以下「TRC」と記載）と締結することとなった。

### 3. 試行実施時と本格実施時の違い

先に述べたように、試行実施時は多言語対応を目的に考えていたため、洋書だけで700冊以上のコンテンツを提供していたが、本格実施にあたっては、「読書バリアフリー法の施行（令和元年6月）」を踏まえ、視覚障害者にも利用しやすいよう、資料や機能の充実をメインに考えており、読み上げ機能のある資料を多く選定するようにした。

また、試行実施時は、利用に際し、来館が必要と

なっていたが、本格実施の際には、図書館カードを持っている利用者は来館しなくても電子図書館サービスを利用することができるようになった。

### 4. 電子図書館実施の予算とコンテンツについて

電子図書館の導入については、非来館型サービスとしてコロナ禍では一定の評価を得ていたが、当初の予算については導入経費のみで、コンテンツ費用に関しては、資料費からの執行となっていた。

また、紙資料と違い、電子コンテンツには利用制限があり、TRCが提供する「LibrariE&TRC-DL」のコンテンツにもライセンス販売型と期間限定型とがあった。ライセンス販売型とは、一度購入すると、ベンダーが変わらない限り、利用することができる買取のようなもので、期間限定型は2年間あるいは24回や52回等の回数制限があり、制限を超えると利用ができなくなる。図書館に提供されるコンテンツ数はベンダーによって違いはあるが、そう多くなく、且つ、発行年が古いものが大半で、新しいものはあっても期間限定型での提供が多い。その上、紙の資料のほぼ2~3倍の価格で、提供数を増やせない要因となっている。

こういった状況ではあったが、試行実施時の提供資料数（青空文庫を除く）を維持するために、開始当初用意したコンテンツ数は、青空文庫（500冊）を入れて、2,950冊で、令和2年度末には3,481冊まで追加することができた。令和3年度においても、追加を行い、4,461冊のコンテンツを（令和4年2月現在）提供している。その内容は、小説・エッセイ、旅行、料理本、ビジネス、語学関連など、一般の人が気軽に読める書籍を選定しており、読み上げ機能があるものとしては、同月現在2,882タイトルを提供している。また、当館の独自資料をUPすることができ、「KOBEの本棚」や「としょ☆ぴか」等を定期的に提供している。

書籍統計(タイトル数統計)	R3.3月末	R4.2月現在
ライセンス販売型(買取)	1,910	2,260
期間限定型(2年・52回)	1,068	1,701
貸出回数限定	0	0
制限なし(青空文庫)	500	500
ライセンス制限なし(独自コンテンツ等)	3	21
計	3,481	4,482

### 5. 収集方針及びサービスについての要綱策定

電子書籍を選定・購入するにあたり、他都市の事例なども確認し、現在の『神戸市立図書館資料取扱要綱』に「電子図書館用資料」の項目を新たに追加した。また、『神戸市立図書館資料収集基準』においても、今回の実施目的でもある「読書バリアフリー法」の理念を含めた。その他、サービスを提供するにあたり『神戸市立図書館電子図書館サービス要綱』

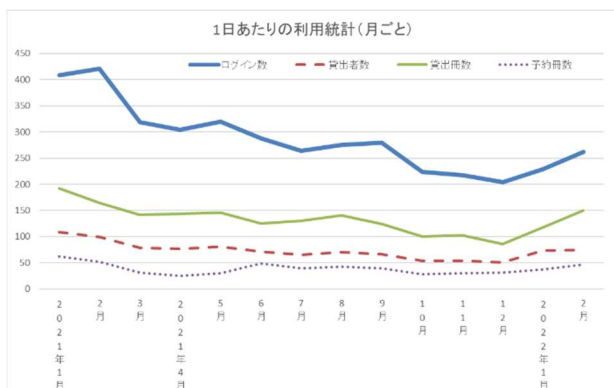
の策定を行った。

## 6. 利用推移

月ごとの利用者統計をとると、どの数値も当初よりは下がりつつも、一定のところまで横ばいになってきているように見える。導入当初は、様々なPRにより、一時的に利用した方が多かったが、現在では、実際によく使う利用者が平均的に利用しているように考えられる。また、今回のシステムでは、既に図書館カードを持っている利用者は、別の手続きをする必要がなく、すぐに利用できるが、カードの更新時などに説明をする際に、電子図書館のことを知り、利用を始める方も多く、毎月一定の更新者数=ほぼ電子図書館へのログイン数となるため、極端な減り方はしないとも考えられる。

	ログイン数	貸出者数	貸出冊数	予約冊数	備考
2021年1月	409	109	192	62	1月5日～
2月	421	99	164	52	
3月	319	79	142	31	
2021年4月	305	77	144	24	
5月	320	81	146	30	
6月	288	71	125	49	
7月	264	65	130	40	
8月	275	70	141	42	
9月	280	66	124	39	
10月	224	54	100	28	
11月	217	53	103	30	
12月	204	51	86	31	
2022年1月	229	73	118	37	
2月	262	75	150	47	
延べ合計数	119,708	30,127	55,608	16,160	(1/5～2/28)
延べ日数					420
1日当たり	285	72	132	38	

↓上記表を折れ線グラフにしたもの



いずれにしても、一定の利用者は常に活用されているとすると、今後も定期的なコンテンツを増やすなど、継続した利用促進を考えていく必要がある。

## 7. 今後の課題

コロナ禍の非来館型サービスとして、注目を集め、他都市でも徐々に電子図書館の導入が増えている。

また、図書館の利用が困難な方へのサービスとして、期待される動きもある。今後は、こういった潜在的な利用者へのPRを含め、コンテンツ数を増やしつつ、より使いやすく、資料提供を進めていくかを考えたい。

## 予約図書自動受取機(システム・ファインド・ピッカー=SFP)について

総務課担当課長 村井 博之

令和2年6月30日から、全国で2例目となる予約図書自動受取機の運用を開始した。1例目は愛知県安城市の図書館で、こちらは館の外側に設置されている。図書館から離れた場所での運用は全国初である。

三宮図書館が、現在と同じ場所に建設される再開発ビルの中に入ることが決定し、ビルの建設期間中、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)の2Fへ仮移転することになった。現在の場所からKIITOまでは距離があるため、三宮図書館の利用者の利便性を担保する役割も担っている。

市営地下鉄海岸線の三宮・花時計前駅の改札付近に設置し、返却ポストも併設した。設置場所に立ち入れるのが、駅の開業時間である朝5時30分から終業の夜12時までであるため、その時間内での利用が可能である。

約1,000冊が収容可能だが、大きさや厚さの関係で受取機に入らない本や、ICタグを貼付していない本は受取機での貸出ができないので、そういった本の受取場所には、自動受取機を指定できないようにしている。

当初は利用数の予測が難しかったため、本の置き期間を3日間としていたが、令和3年2月からは5日間に延長している。

令和3年11月には3,252冊が貸出されており、1日平均100冊以上が貸出されていることになる。

三宮図書館の指定管理者には、日常の本の入出庫と機器トラブル時の初動対応をお願いしている。

新型コロナウイルス禍が広がる中で、他の自治体からの問い合わせがあるなど、非接触型の図書館サービスとして注目されている。



## －「こども本の森 神戸」寄贈本の受付－

「こども本の森 神戸」（令和4年3月開館予定）へ収蔵する児童書の寄贈募集が、令和3年7月6日から8月31日まで行われ、市立各図書館が受付窓口となった。図書館に集まった本は14,554冊。郵送等で文化交流課に届けられた本と合わせて約21,000冊の寄贈本が集まった。（子供サービス担当係長・間屋）

## －みなと銀行本店パネル展示－

みなと銀行本店1階ギャラリーに、令和3年11月2日（火）から30日（火）までの1か月間、神戸市立図書館のサービス全般と新館整備計画の概要パネルを展示した。普段図書館の存在に関心の無い方々にも認知していただける貴重な機会であった。（総務課長・鎌田）

## －地域図書館への児童書寄贈について－

一般財団法人みなと銀行文化振興財団様から、新長田図書館へ33冊、名谷図書館へ51冊（各10万円相当）計84冊の児童書をご寄贈いただいた。平成28年度より毎年2館ずつのご寄贈で、6年目のこの度、市立図書館12館全館全てへのご寄贈となった。

（資料係・小倉）

## －地域館トピックス－

### 【映画監督・濱口竜介氏講演会「文学と映画」】

新長田図書館では令和3年12月26日、神戸市立ふたば学舎において映画監督・濱口竜介氏の講演会を開いた。濱口氏はセリフの語尾一つで演出が変わる言葉の大切さについて小津安二郎作品を例に語った。会場からの質問にも丁寧に応じて下さり、受講者にはまたとない機会になった。

【開館記念：新長田25周年（令和2年度）、兵庫25周年・垂水30周年・須磨40周年（令和3年度）】

令和2年度・3年度が節目の年となった4館では、それぞれ記念行事を行った。

新長田図書館は、北野勇作氏の体験型講座「100文字小説マイクロノベルを書いてみよう」（令和3年2月）を開催したほか、「写真に見る長田の明治・大正・昭和の時代」など神戸アーカイブ写真館所蔵のパネルを展示した（令和2年12月～令和3年11月）。

兵庫図書館では、開館当時の世相を振り返る展示「プレイバック 1996～兵庫図書館のはじめの一步をふりかえる～」（令和3年8月～10月）を開催したほか、「みんなで作ろう兵庫区かるた（読み札編）」として、兵庫区を題材にしたかるたの読み札を募集した（令和3年12月～令和4年2月）。取り札と併せてカルタの完成は令和4年度中の予定である。

垂水図書館では、葉型のメッセージカードを樹に貼り展示する「お祝いの樹」（令和3年11月～令和4年3月）やバスデーケーキをバックに写真が撮れる「お

祝いフォトスポット」（令和3年11～12月）の設置、記念しおりの配布（令和3年10～11月）などを行った。

須磨図書館では、利用者に切り絵を貼ってもらい完成させる「お祝い絵を完成させよう」（令和3年9月）や、お祝いパーティーをしているぬいぐるみと一緒に写真を撮ることができる「ぬいぐるみたちの記念パーティーへご招待」（令和3年10月）などを行った。

（総務課・谷岡）



（記念の飾りつけをした須磨図書館カウンター）

## －図書館システムの共同運用を終了－

令和3年12月を以って、神戸市外国語大学学術情報センターと神戸市看護大学図書館は、神戸市図書館情報ネットワークシステムから各々パッケージシステムへ移行した。これにより、25年余続いた複数機関による同システムの共同運用は終了した。

（総務課・高橋）

## －垂水図書館と北図書館の移転・拡充計画について－

垂水図書館と北図書館について、それぞれ移転・拡充の計画が進んでいる。垂水図書館は、現図書館の西側、臨時駐車場の跡地に、北図書館は移転した北区役所の跡地への移転がそれぞれ計画されている。

新垂水図書館は令和6年度末に、新北図書館は令和7年度中に開館する予定で、現在は設計協議（垂水）や基本方針の策定（北）など、開館に向けての準備を行っている。令和9年度に開館予定の新三宮図書館も含めて、3つの拡充計画が同時に進行することになる。

（総務課担当課長・村井）

## －手帳－

人事	8.31	退職
	藤原 高広	再任用：調査相談係
	10.31	退職
	川口 則男	市民サービス係
	10.1	人事異動（ ）は異動先 兼務発令（10/1～11/30）
	平野 和	（健康局保健所保健課）
会議	8.3	中央図書館協議会
	9.1/10.1/12.1	経済港湾委員会
	9.15	決算特別委員会（局別審査）
	9.30	兵庫県立図書館協議会（リモート）
	10.19	中央図書館職員安全衛生委員会
研修	8.31～9.3	新任図書館長研修
行事	11.12	神戸子ども文庫連絡会・図書館 ネットワークとの交流会
その他	11.5	兵庫県津波一斉避難訓練
	12.15	市民満足度調査